令和６年度森川特別支援学校　児童生徒アンケート考察

生徒が学校を安全な居場所としてくれるように学校生活を工夫すること必要で、生徒の実態や障害の特性を理解すること、生徒の声に耳を傾けることが不可欠である。

評価内容に関して、ほとんどの評価項目で「Ａとても思う」「Ｂ少し思う」の良い評価をつけ、概ね肯定的な回答を得ている。以下、「Ｃあまり思わない」「Ｄぜんぜん思わない」を合わせて２人以上評価を付けている評価項目に対して考察する。

④授業では考えをまとめたり、発表したりすることがある（本校中学部）

→日々の授業の中で取り組んでいるものの、本校の学習形態や生徒の実態から人前で発表することが苦手な生徒もいるので、配慮していることもある。

⑥授業ではコンピュータやインターネットを使うことが多い（本校中学部）

→日頃より先生方は、内容の理解促進のため生徒の実態や学習形態に配慮しながら実践している。今後も ICT の利活用を進めながら工夫改善を図っていきたい。

⑦先生は自分たちの意見を、よく聞いてくれる（本校中学部）

⑩進学や就職など、将来のことについて先生と話をしている（本校中学部）

⑪気軽に相談できる先生がいる（本校中学部）

→登校が安定できていない生徒に関しては、先生でなくてもスクールカウンセラーや図書司書、養護教諭等がいるので、先生意外にもいろいろな話しができるようにその機会を作ったりすることが必要である。また、不安や悩みに関しても、気軽に相談できるような場を設定する必要があると思うので、QR コードから相談できる「森川サポート（相談窓口）」を設定した。今後も更に安心して話ができる環境を意識していきたい。

⑬教室でいじめや暴力はみられない（本校中学部）

→Ｃ と Ｄ に回答があったため、人権委員会を開催し、学校生活アンケートの実施、QR コードから相談できる「森川サポート（相談窓口）」を設定した。今後は更に、生徒同士トラブルで気になる場面があれば、連絡会や職朝を活用し、職員間で連携しながら情報共有や共通理解を図り対応、相談ができる体制づくりを引き続き図っていく。

⑰児童生徒会の活動が充実している（本校中学部）

→係を中心にこれまでも生徒の実態に配慮し検討を重ね、工夫を図ってきたが、今後も実態に応じた活動や内容に関しての周知、参加の仕方を工夫していく必要がある。

⑳本校の中で「危険だなぁ」と思う場所はない（本校中学部）

→危険な場所があれば記入するよう求めたが、無回答であったため場所の特定はできなかった。校舎も老朽化し劣化も見られるが。日頃より事務部と連携して危険箇所や修繕に対しては早急に対応できている。引き続き取り組んでいきたい。